

常磐夕日

發行日 每月五日
二部五錢
印刷所 高橋竹四郎
發行所 福島縣平町
磐城タイムス社

釜屋商店
平町五丁目
諸橋 守次
諸橋 元三郎

年頭の感

昭和庚午の意義深き新春を迎え聊か年頭の感を開陳せんとす

一、本紙は正義を標榜し大衆の味方として奮闘す

右の如き使命を帯び徹頭徹尾自我の鐵塔に據りて勇猛邁進筆端火を吐く文陣に意義大所感所信を披レキせん

常磐タイムス社
昭和庚午元旦

納豆賣

「納豆……」と清園
毎朝未だ霜深い凍りついた路を踏むで、此のさむ空に洗ひ薄れた綿目もよほは見えない破れた袴一枚に身を包んで何本かの納豆を籠に突込んで背ひ、ふるひながら……それで呼ぶ聲は高く町内を廻つて歩く、ヤトハツが九ツと見える名は欣次と云つて服装こそ見すばらしいが何處かに氣品を備えた少年がある。
今日もいつものやうに五丁目の釜屋といふ東北切つて有名な金物店の横町を通りかかつた時下女らしいのが「納豆屋さん」と呼び止めて「四五本あつた納豆を皆んな買つてくれた。欣次は涙さへうかべる迄に感謝の面持ちで、
「お婆さんいつも有難う」と何度か頭を下げて行き過ぎようとするとき、下女らしいのが急に呼び止めて「寒いだろうよ」とも同情するよな面持ちで話かけた。そして
「もう納豆も賣れ切れたよ。だからチツトお婆さんとこであつて行つてはどうあまにも寒むさうな憐れみぢめな姿を見て氣の毒に思つたのであろう、家へ入慮しながらそれでも温かい情の言に嬉れしそに二三度叩頭して
「僕は寒くないの、家に居る母ちゃんのを思ふとこゝうして歩く位なんともないんぞ」
「あら、だつて母さんのことが勝手の方から『お竹さん』を思ふぞ寒くないつて……と小僧らしいのが呼ぶ聲に欣次の話す處によると、欣次は返つたやうにそれでも欣次の一家は平町内でも手廣く薪炭米穀等のあきないを云ふの、可愛想な者は恵んで一時は人にも羨まれるでやれ……そうしてアンタ程の店であつたが、数年前の聲を聞きつけてはいつも父の鈴村欣一は營業上の失言を聞きつけてはいつも敗から氣を腐らしたのが病言のよ」
「そうお婆さん、こんな立派な家の人でも僕のことか死んでしまつた、三人のんかそう云つてくれるのか、お婆さん片足を勝手口へ突込んだまゝ奥の方を見やうなら」
「寒い暑いは皆んな同じよ。家の若旦那なんか二人とも朝から晩までこのさむいのに、手なんか海老のやうに赤くしてゐるんだからね。欣ちゃんも勉強して大きくなつたらこんな立派な家を二つもこしらへなさいよ、其の時はお婆さんもオヨバレに行くわ」さん次も元氣づけられて
「でわお婆さん左様なら」と二三歩馳け出してなつとう一本もないのに氣が付く。ホホホと獨り笑ひを残して月見町の方へ一目散……
「お竹さん」今度は小僧の大きな聲にお竹も奥の方へ一目散……(つづく)

三井吳服店
柏原幸次郎

謹賀新年

小田炭礦株式會社

入山探炭株式會社

湯本同運送合資會社

平運輸株式會社

東部電力平營業所

湯木用無盡株式會社

公認磐城自動車學校

古河炭礦々業所

有限信用組合平庶民金庫

山崎合名會社

平材木商業組合

堀江工業所

片磐城製絲株式會社

小名濱町 清酒 釀造元 小野晋平

平町料理屋組合
豐間料理店組合

平西洋料理業組合

石城郡第一區小學校長會

同第二區校長會

同第三區校長會

同第四區校長會

平三業保健組合 佐々木金次郎

宮二業保健組合

四倉藝妓屋組合

平健指業組合

平旅館業組合

朝鮮炭礦 戸部 光衛

石城郡銀行組合

小名濱町 大敷網事務所

平町公立學校長懇話會

平町藝妓屋組合

大敷網事務所